山形県東根市における
果樹生産地域の維持要因

4年　大山悠基

はじめに

・1990年代前半の農産物市場開放の動き

→農産物産地存続の危機

→産地維持という視点の出現（伊藤，1997a）

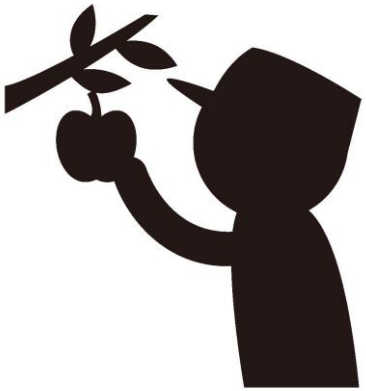
・1990年代後半から労働力や担い手の不足・高齢化

→産地維持への関心の高まり（川久保，2003）

はじめに

維持要因の論点

（１）農家の経営最適化



・伊藤（1997b）

新技術の導入，市場に応じた作物転換

・栗林ほか（2011）

新品種の導入，出荷先の多様化

・大森（2001），浅井ほか（2007）

第三者機関の支援を伴う労働力調整

はじめに

維持要因の論点

（２）イノベーションの進展

・伊藤（1997b）

頻繁な栽培技術開発，品種改良

・浅井ほか（2007）

農作業機械化による省力化

はじめに

問題点

イノベーションによって刷新された技術の
普及・伝承システムに焦点が当てられていない

地場産業分野では，産地維持要因として技術伝承に着目

インフォーマルな主体による技術伝承が重要

・須山（2004）

徒弟制の拡大による地域的再生産システムの確立

・高嶋（2015）

職人の互助組織における活動が技術伝承を担う

はじめに

研究目的

①生産規模を維持している果樹生産地域を調査
既存研究と比較し維持要因を解明

②対象地域の栽培技術伝承体系を明らかにし
イノベーションの進展について再検討

調査対象地概観

東根市の農業

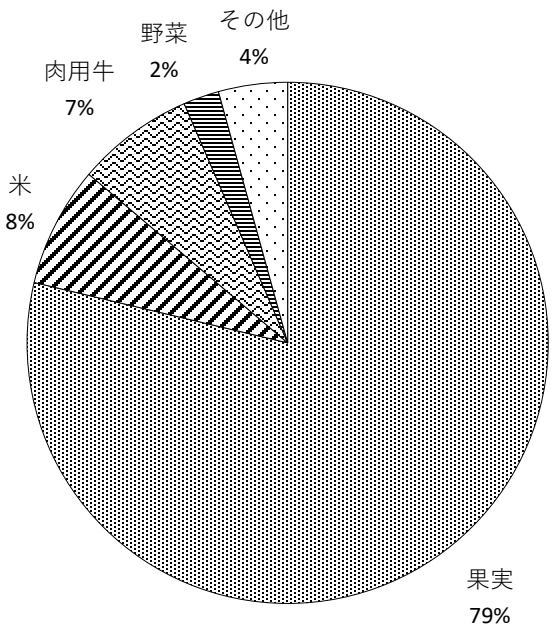


図1　農業産出額の内訳

農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」より作成

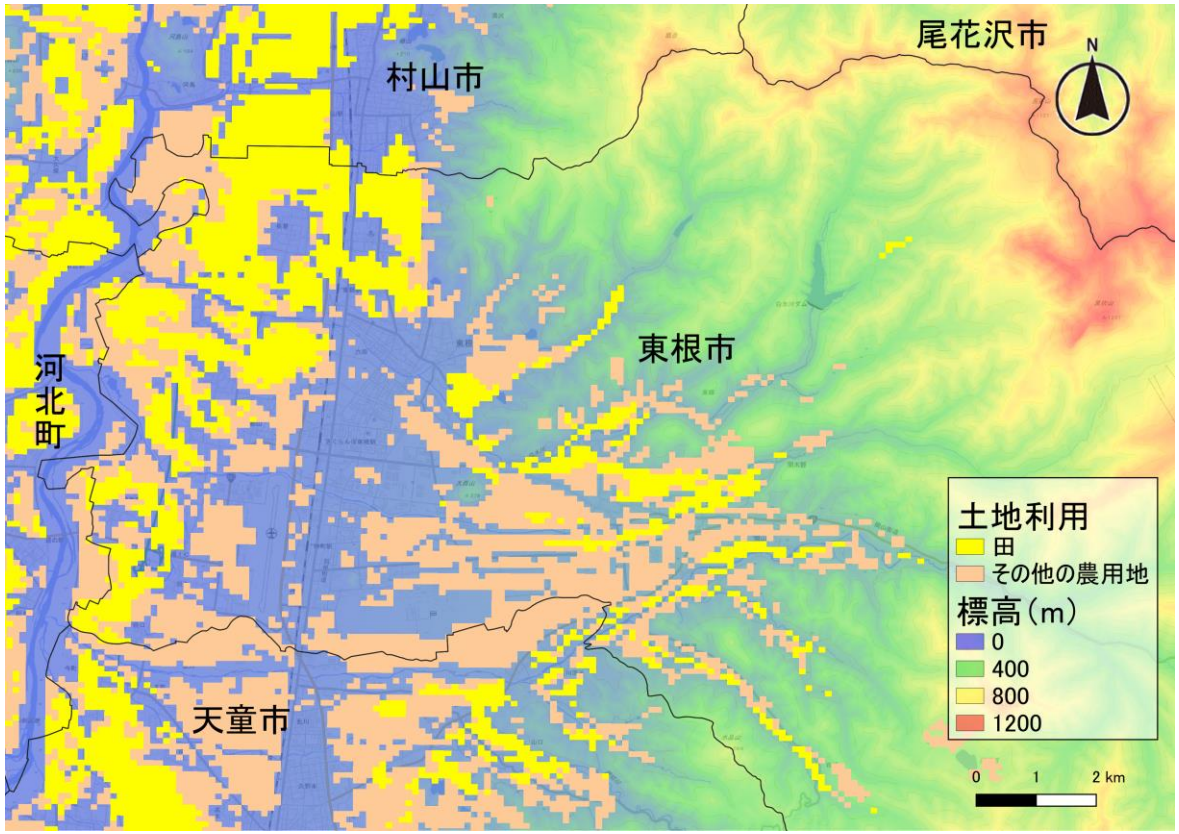


図2　土地利用と標高段彩図

国土数値情報より作成

対象地域概観

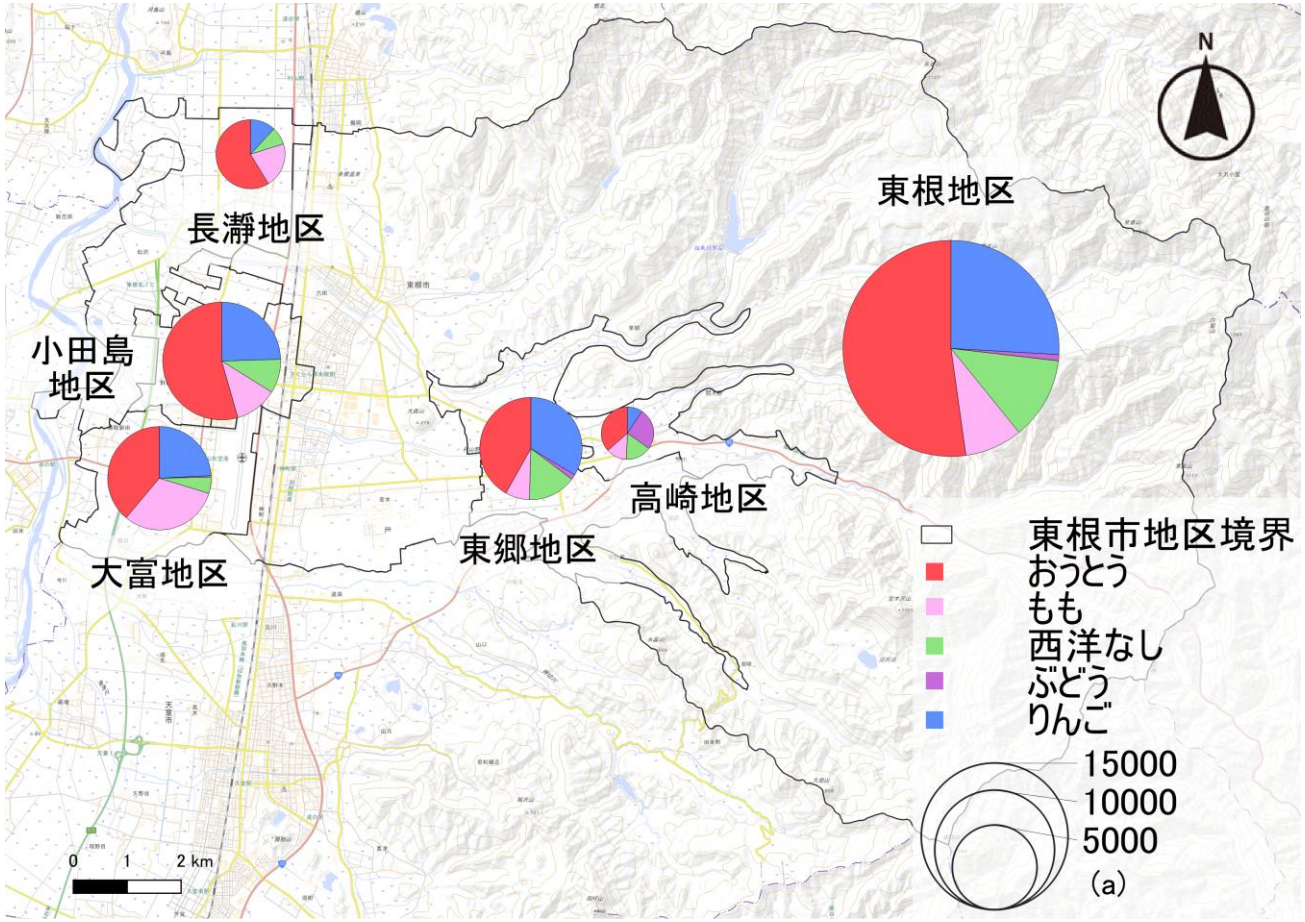


図3　地区別果樹栽培面積と果樹品目割合

農林業センサス（2015）より作成

対象地域概観

農業人口減少・高齢化

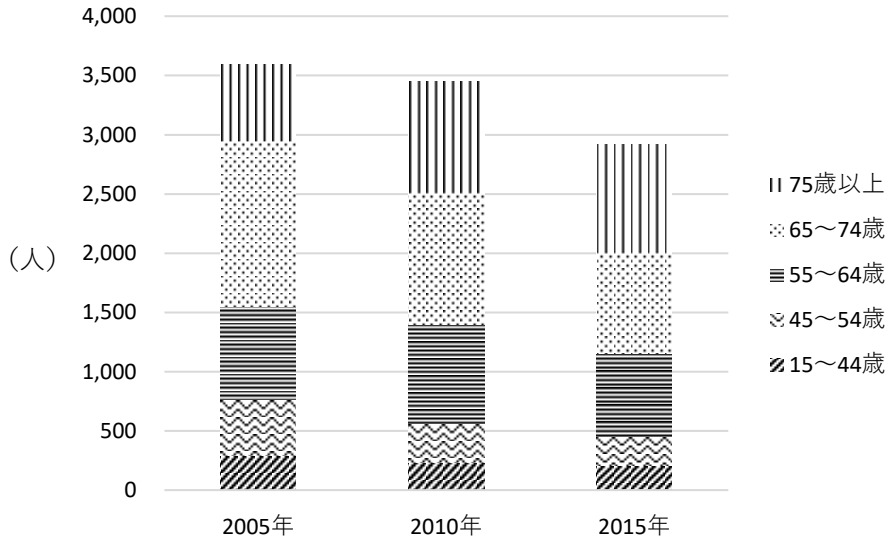


図4　年齢別基幹的農業従事者数（東根市）

農林業センサスより作成

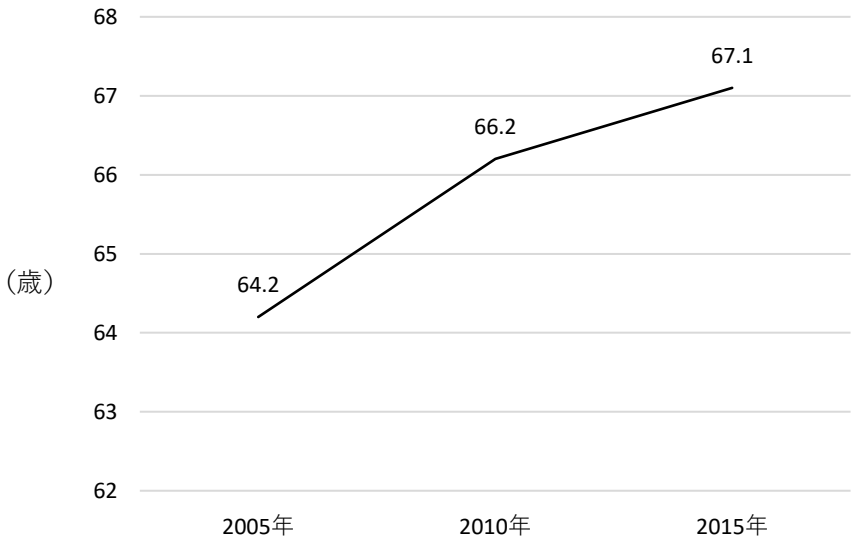


図5　基幹的農業従事者の平均年齢（東根市）

農林業センサスより作成

対象地域概観

農協の取扱高・取扱数量は概ね横ばい，推計産出額は5年連続で微増

産地維持に成功→調査対象として適切

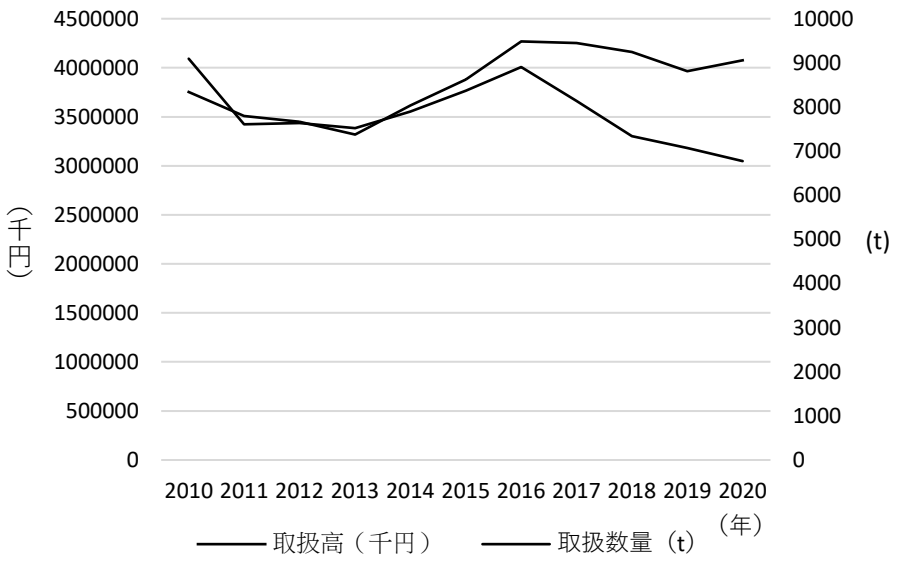


図6　東根農協の果実取扱高および取扱数量の推移

聞き取り調査より作成

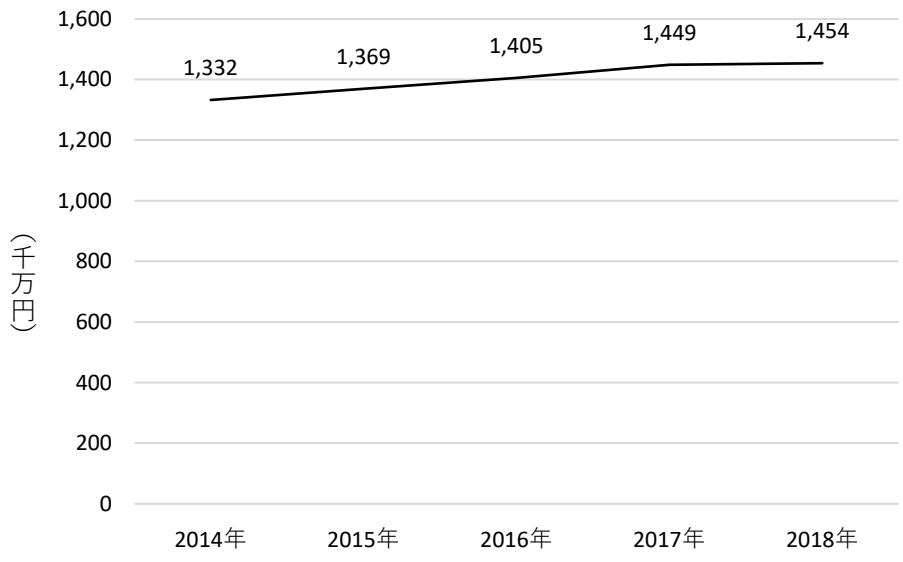


図7　果実の農業産出額（東根市）

農林水産省「市町村別農業産出額（推計）」より作成

調査方法

資料調査

東根市農協資料，東根市史，東根市および山形県HP

インタビュー調査

・栽培農家への聞取り

（経営業態，栽培品目・品種，出荷先の選択，
労働力調整，栽培技術の習得・伝承などについて）

・農協への聞取り

（品種改良，労働力斡旋事業，若手農家支援事業などについて）

果樹生産の実態

経営構造

番号	地区	農業従事者年齢構成					後継者
		15－29	30－39	40－49	50－64	65－	
①	東根			★○		○	無
②	東根		●○		★○	○	有
③	若木	(○)			★○	(●)(○)	有
④	長瀞		★		●(○)	●	無
⑤	東根	●		(○)		★○(●)	有
⑥	小田島				●	★○(○)	無
⑦	大富			●		★○	有
⑧	若木				★		無

●男性　○女性　★経営者　()補助程度

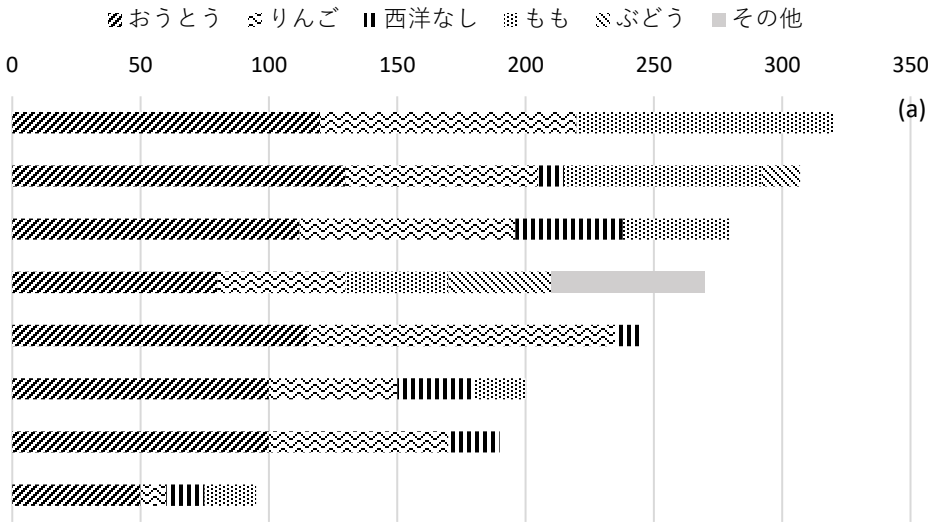


図8　農家の経営業態と栽培面積（aｱｰﾙ）

聞取りより作成

果樹生産の実態

（１）農家の経営最適化

栽培品目・品種の選択

・複数の品目，品種栽培→収益安定化，労働力分散，リスク分散

・需要に合わせた品種導入，改植

例１）おうとうの主力品種「佐藤錦」は日持ちが悪いため，収穫期末期は単価低下

→収穫期が遅く単価上昇傾向にある「紅秀峰」に一部改植

→「佐藤錦」から「紅秀峰」の収穫リレーで収益向上

例２）農協経営の大型直売所に近い農家は多くの品種を少量栽培

→収穫期分散

→毎日出荷で収益安定化

果樹生産の実態

（１）農家の経営最適化

出荷形態

・直接販売で手数料削減→利益率向上

・等級分けがあり，取扱の幅が広い農協に出荷 ↘

品質の取扱基準が低い仲介業者に出荷 → ロス削減

・百貨店への出荷→広告塔として機能→直販の顧客獲得

果樹生産の実態

（１）農家の経営最適化

労働力調整

・不足労働力の補充

例１）知人・友人への依頼，近隣住民への依頼，求人サイトを介した雇用

例２）農協の労働力斡旋事業を利用した事例

・栽培品種の工夫

例１）栽培品種・品目の多様化→労働力分散

例２）黄色品種のりんごを導入→着色のための作業を省略

果樹生産の実態

（２）イノベーションの進展

品種改良

・おうとうの人気品種「佐藤錦」「紅秀峰」，新品種「やまがた紅王」

栽培技術開発

・剪定技術の向上

・雨除けハウス栽培→雨水による実割れを防止

・短期加温栽培→需要の先取り

加工技術開発

・缶詰加工技術→遠方への出荷が可能に（明治時代）

果樹生産の実態

（２）イノベーションの進展

栽培技術の普及・伝承

・東根市果樹研究会（青年農家による互助組織）

剪定講習会，立木審査会，品評会，冬季研修会等の開催

所属経験ある農家は軒並み高評価

・熟練農家による個別指導の慣習

有志の青年農家が熟練農家を訪問，直接指導を仰ぐ

・農協による技術指導

営農指導員による個別訪問指導，講習会の開催

２０２０年は１００件を超える応募

果樹生産地域の維持要因

①既存研究との照合

（１）イノベーションの進展

おうとうの頻繁な品種改良，様々な栽培技術の開発

（２）農家の経営最適化

市場に応じた品種の導入，効率的な出荷先選択

労働力補充・品種選択の工夫による必要労働力削減

既存研究と同様の実態が存在
すなわち維持要因として機能

果樹生産地域の維持要因

②イノベーションの進展について再検討

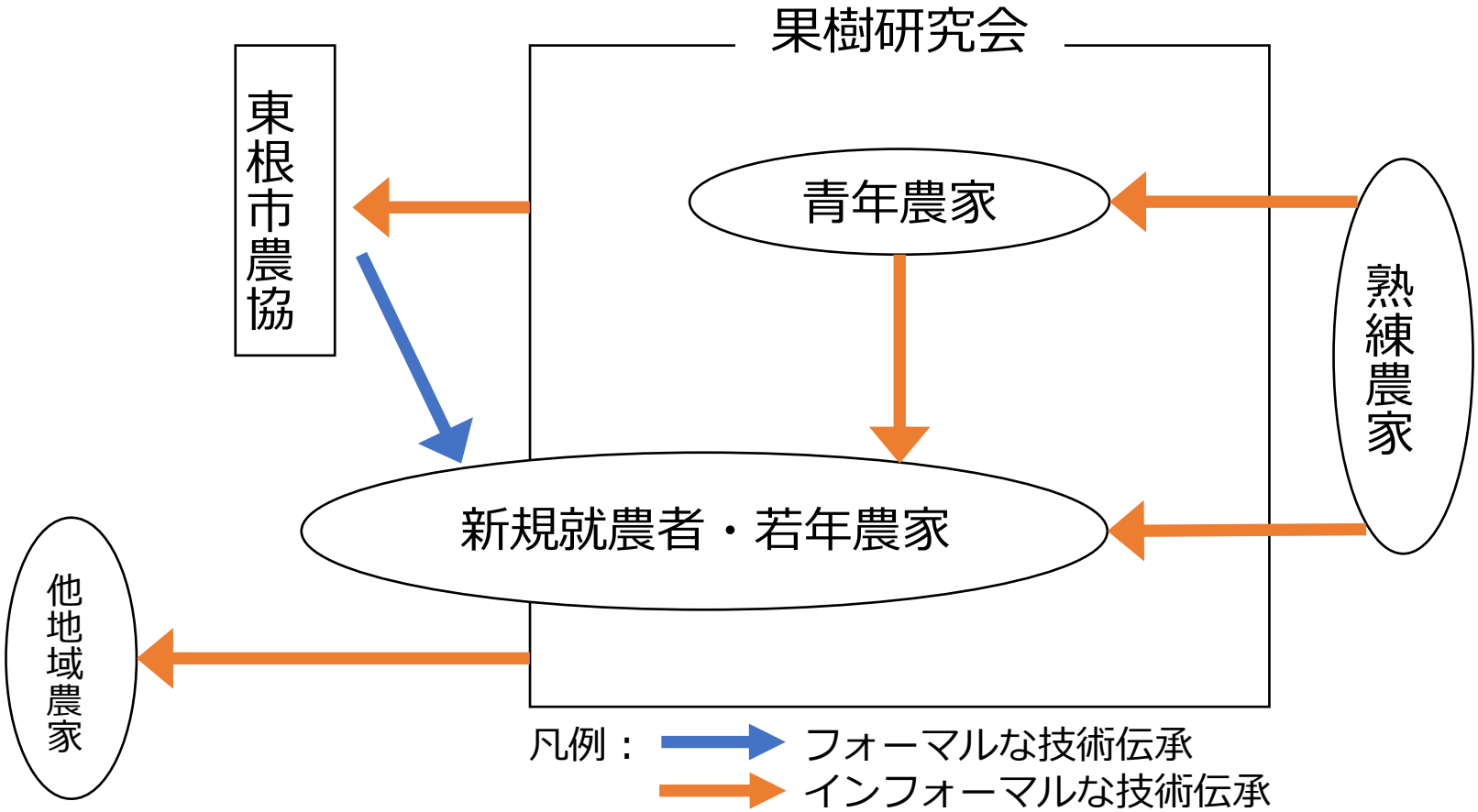


図9　東根市の栽培技術伝承体系

聞取りより作成

おわりに

結論 Conclusion

・東根市においても既存研究と同様の果樹生産実態を確認

これらが産地維持要因として機能している

・イノベーションの進展においては

インフォーマルな主体を中心とした

地域包括的な技術伝承体系の確立が技術水準を底上げ

資料・文献

浅井崇俊・久保陽平・村松美紗子・仁平尊明 2007．山梨県一宮町における果樹生産地域の特性．地域研究年報 29：81-97.

伊藤貴啓 1997a．野菜・果樹・工芸作物の生産と流通の構造変動．経済地理学会編『経済地理学の成果と課題　第Ⅴ集』．大明堂：91-108.

伊藤貴啓 1997b．経済の高度成長期における農業地域の変化―愛知県蒲郡市のハウスミカン産地を事例として―．山本正三・千歳寿一・溝尾良隆編『現代日本の地域変化』．大明堂：24-44.

大森祐美 2001．リンゴ栽培地域における農業労働力補充の地域的展開―松本市今井を事例として―．地域調査報告 23：57-64.

川久保篤志 2003．主産地の変動．経済地理学会編『経済地理学の成果と課題　第Ⅵ集』．大明堂：74-85.

栗林賢・飯島智史・仁平尊明 2011．須坂市野辺地区における果樹栽培地域の維持要因．地域研究年報30：15-28.

須山聡 2004．石川県輪島市における漆器業の存続・発展．須山聡著『在来工業地域論ー輪島と井波の存続戦略ー』．古今書院：45-178.

高嶋忍 2015．地域文化と伝統工芸の関係性ー現代の赤穂緞通における技術伝承と普及活動ー．美術科教育学会誌 36：253-264.

東根市 2002．『東根市史　通史篇　下巻』．中央印刷株式会社：789-884.

東根市農業協同組合 2014-2020．『通常総代会資料』．東根市農業協同組合.

東根市ホームページ．https://www.city.higashine.yamagata.jp/661.html（2022/02/03筆者閲覧）.

山形県ホームページ．
https://www.pref.yamagata.jp/020026/kensei/joho/koho/mailmag/gensenyamagata/sakuranbo.html
（2022/02/03筆者閲覧）.